



公益財団法人 国際交通安全学会

International Association of Traffic and Safety Sciences

2022年度 研究調査報告会・学会賞贈呈式



武内 和彦

(公財)国際交通安全学会 会長
(公財)地域環境戦略研究機関 理事長

春暖の候、各位におかれましては益々ご清栄のことと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃から当学会の活動に格段のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

高質な交通とその文化は、産業・社会活動の発展に寄与するとともに生活の便利さと豊かさを支え、急速に進む情報化社会においても重要な役割を果たしています。とりわけ自動車交通の発展は、公共的・私的なモビリティの質的・量的な拡大をもたらしています。

しかし、その一方で、交通事故、エネルギー、資源消費など多くの深刻な問題を抱え、さらに、高齢化や都市・地方の衰退といった社会問題に加え、地球温暖化に対する脱炭素も喫緊の課題となってきています。また自動車産業においては、100年に一度と言われる転換期が来ていると言われ、既存のモビリティに対し、E-モビリティによる台頭がすでに始まろうとしています。持続可能な優れたモビリティ社会の実現に向けたさらなるグランドデザインの理念構築、実践的問題解決のための調査研究および提案、継続的な教育支援活動などが求められています。

国際交通安全学会は、交通とその安全・安心のために学際的かつ国際的な視点から取り組むことが重要な責務と考え、研究調査活動を進めて参りました。今後とも、関係者各位に変わらぬご支援、ご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

この度、当学会定例の研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式を催すことになりましたので、皆様にご案内申し上げます。ご多用中とは存じますが、万障御繰り合わせの上ご出席を賜れば幸甚に存じます。

公益財団法人 国際交通安全学会
会長 武内 和彦



谷川 武

(公財)国際交通安全学会 会員
研究調査部会企画委員会 委員長
順天堂大学 教授

春情の候、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃よりIATSS研究調査活動にご理解・ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

本日は、私どもIATSSの研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

研究調査活動は私どもIATSSの中心となる活動です。会員がリーダーとなって構成する研究調査プロジェクトを通じて、様々な分野の研究調査が発表され、報告書にまとめられます。アプローチでは「学際性」、「国際性」を重視し、アウトプットでは目的達成に直結する「実際性」、「先見性」を重視しています。研究調査プロジェクトではこれら4つの特徴に基点を置き、理想的な交通社会の実現を目指し様々なテーマに取り組んでいます。

今年度(2022年度)は10テーマの研究調査プロジェクトに取り組みました。今回の報告会では、この中から4テーマの研究調査プロジェクトの成果をご報告申し上げます。

今回は、ウィズコロナでほぼ定着しつつあるハイブリッドでの開催となります。この機会に是非ともご出席を賜り、活発な議論をしていただければと存じます。

また、研究調査報告会に続き、交通と安全に多大な貢献が認められた業績、優れた著作、および優秀な論文についての学会賞贈呈式も予定しております。ご多用中とは存じますが、皆様のご参加を心からお待ちしております。

公益財団法人 国際交通安全学会
研究調査部会企画委員会 委員長 谷川 武

2207A プロジェクト (フォーラム連携)

カンボジアにおける 交通安全行動変容プログラムの開発と実施

《背景と目的》

アジアの途上国では、経済成長を実現する中で、急速なモータリゼーションと高規格道路整備が進み、大都市の郊外部や地方部においては、走行速度の上昇などに起因した交通事故の増加が課題となっている。カンボジアでも国道5号線の整備・高規格化に伴い同様の課題が生じ、これに対し政府アクションプランに交通安全教育や行動変容プログラムが位置づけられ、JICAの交通安全技術協力プロジェクトが開始された。

IATSSフォーラム・カンボジア同窓会(CIAA)およびJICAと連携し、行動変容プログラムチームを立ち上げる。さらに、現地の実態および行動変容理論の最新動向の把握に基づき、学際的な視点から新たな行動変容プログラムの概念モデルとその実装に向けた調査方法(児童・学童対象)を検討し、チームと協働のもとプログラムを実施する。

《2022年度(1年目)の成果と今後の予定》

- CIAA, JICA, 現地の教育学専門家・行政などと行動変容プログラムチームを組織
- 現地の小・中学校・高校へのヒアリング・ビデオ調査により交通安全教育および通学実態を把握
- 最新の行動修正モデルを基に行動変容仮説を構築し、プログラム実施前の行動把握のための生徒に向けたパイロット調査を実施

⇒次年度のプログラム実施に向けた準備が完了

- 行動変容プログラムの内容、およびインパクト評価手法を開発し、国道5号線沿いのいくつかの中学校にてプログラム・評価を実施
- 現地チームを中心とした持続可能な体制づくりの支援を予定



国道5号線沿線での通学の様子



CIAA・JICA・IATSSの連携

2203C プロジェクト

ウォークアブル・シティ評価手法の開発

《背景と目的》

日本では急激な人口減少、超高齢化を迎え、都市のコンパクト化が進められている。しかし、ただ単に都市をコンパクトにすれば良いわけではなく、都市の活力を維持し、魅力を向上させるために「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市再生が2019年に国土交通省に設置された懇談会で提唱され、2020年度から「まちなかウォークアブル推進プログラム」がスタートすることになった。既に、全国で346(2023年1月末現在)の都市がウォークアブル推進都市として名乗りを上げている。本研究はウォークアブルな都市(ウォークアブル・シティ)を横断的に評価する手法を明らかにすることを目的とする。欧米の先進事例を参考にしつつ、日本の都市に適した評価手法を目指す。

《概要》

2022年度(3年目)の成果

- ウォークアブルを評価する視点は、社会課題に応じたアウトカムとして何を指すかによって、変わりうるし変えるべきである
- ウォークアビリティ指標は、社会・経済・環境の持続可能性、健康、都市の3つの視点から整理することができ、また空間スケールにも依存する
- ウォークアビリティ指標は、そのアプローチから客観的、主観的な方法に区分することができ、さらに新たな手法が提案されてきている
- 本研究では、持続可能性、健康、都市の3つの視点、異なる空間スケール、客観的、主観的方法のそれぞれにおいて事例研究を行い、加えて新たな手法についても提案した
- 国土交通省は街区レベルでの主観的手法により評価を進めつつあるが、本研究で取り組んだ客観的手法と新たな手法を組み合わせる評価方法を検討していくことになっている

今後の展開

- これまでの研究成果を出版物として発表するとともに、国土交通省に協力して社会実装を目指す



2022年度現地調査

2208C プロジェクト

電動モビリティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究

欧米諸国では電動キックボードをはじめとする小型の電動モビリティの導入が進み、日本でも移動支援、ラストワンマイルへの活用など普及展開が期待されている。本研究調査では、利用者心理や挙動、安全性評価、法制度など多面的な分析を進めることで、これらの電動モビリティと既存交通手段の混在下における課題を整理し、安全快適な道路整備に関する考察を行う。

本研究調査では6つのワーキンググループ(WG)で活動を行った。WG1では国際比較アンケートを実施し、電動モビリティの普及状況によって、意識の構造が異なる可能性があり、特に普及過渡期では、法制度等の整備や運用サービス向上が社会的受容を高めることを示した。WG2では法制度面の調査を通じて、自動車免許を持たない利用者など、安全教育の徹底の課題。駐輪に対する検討の必要性を示した。WG3、WG5では、利用者挙動に基づいた電動キックボードの安全性、不安感調査を実施し、歩道、車道での混在状況下の留意事項や道路構造に関する課題を整理した。WG4では自治体に対するアンケートを実施し、地域課題に応じて求められる電動モビリティの種類が異なることを示した。WG6では国際ワークショップ開催を通じて、欧州の先進取り組みに基づき、わが国での小型電動モビリティ展開に向けた検討の着眼点を示した。



国際ワークショップ(ウィーン)の様子



ウィーン市内の道路構造・交通運用



電動キックボード走行実験

2220 プロジェクト (社会貢献)

データベース整備に基づいた日本のラウンドアバウトの実態と事例情報の発信

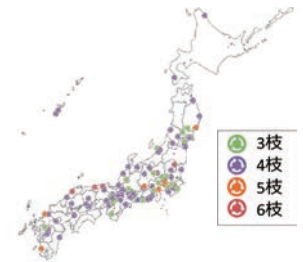
《背景と目的》

過去2箇年に亘るIATSS研究調査プロジェクトでは、全国140箇所に及ぶ日本のラウンドアバウト(RAB)の100項目に関するデータベース(DB)とそれに基づく事例の体系的整理を行うことで、これらの導入経緯、合意形成、適用場面、構造、課題などについての特徴を明らかにしてきた。本プロジェクトは、これらの成果に基づきセミナー開催やウェブサイト整備を行うことによって、日本のRABの実態に関する知見と数多くの興味深い事例について情報発信を行う。また、セミナーにおける意見交換を通じて、実務上のニーズや課題についての情報を収集し、DBの内容にフィードバックを行う。これらにより、道路交通安全と持続可能なまちづくりに寄与する望ましいRABの普及に向けて、IATSSから社会貢献を行うものである。

《概要》

国内各地でRABの導入が増える一方で、その実態の全貌は不明確であった。そこで、RABのDBとそのWeb公開システムを開発することで、国内の導入事例の実態把握を可能にした。本システムにより幾何構造や好事例等の情報提供を行うことで、今後の各地におけるRAB計画・設計に際して、有力な支援ツールとしての活用が期待できる。

また、山形県長井市で開催されたラウンドアバウトセミナーin長井において、本プロジェクトの研究成果に関する講演とポスター発表を実施した。さらに、熊本市において「ラウンドアバウトを活かしたまちづくり、地域づくり」と題したセミナーを開催し、情報発信と意見交換を行った。これらより、RABの普及を加速させるためには、導入上の課題とその解決方法も含めて継続的に情報発信をしていくことの重要性が確認された。



日本のラウンドアバウトの空間分布



ラウンドアバウトDBのウェブサイト開発



ラウンドアバウトセミナー(熊本市)

| | | | |
|-----|---------------------------|------|-----------------------|
| 日 時 | 2023年4月14日(金) 13:00~18:00 | 開催形態 | ハイブリッド開催(会場開催、リモート開催) |
| 会 場 | 経団連会館 経団連ホール | | |

2022年度 国際交通安全学会 研究調査報告会 プログラム

| | | |
|-------|---|----------|
| 13:00 | 開会挨拶 | 会長 武内 和彦 |
| 13:05 | 報告テーマ① [2207A] 《IATSS フォーラム連携プロジェクト》 カンボジアにおける交通安全行動変容プログラムの開発と実施 | 土井 健司 |
| 13:50 | 報告テーマ② [2203C] 《自主研究プロジェクト》 ウォークアブル・シティ評価手法の開発 | 一ノ瀬 友博 |
| 14:35 | [休憩] 15分 | |
| 14:50 | 報告テーマ③ [2208C] 《自主研究プロジェクト》 電動モビリティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究 | 鈴木 弘司 |
| 15:35 | 報告テーマ④ [2220] 《社会貢献プロジェクト》 データベース整備に基づいた日本のラウンドアバウトの実態と事例情報の発信 | 中村 英樹 |
| 16:20 | 研究調査部会企画委員会 委員長 総括 | 谷川 武 |

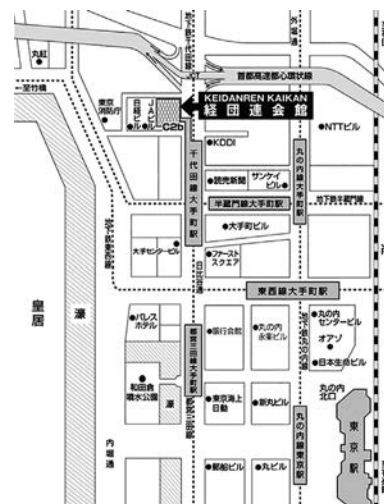
第44回(2022年度) 国際交通安全学会賞贈呈式 プログラム

| | | |
|-------|--|--|
| 16:40 | 来賓紹介 | 司会 |
| 16:43 | 開会挨拶 | 会長 武内 和彦 |
| 16:48 | 選考経過報告 | 褒賞助成部会 企画委員会 委員長 小川 和久 |
| 16:55 | 賞の贈呈 | |
| | 業績部門: 除雪の力で滑走路を守る —雪とたたかう人々の技術の伝承— | 北海道エアポート株式会社 地崎道路株式会社 北海道支店 |
| | 論文部門: 『諸国御客船帳』にみる近世の海運業 —讃岐国粟島と若狭国早瀬をめぐる海上文化史— | 河原 典史 |
| | 論文部門: 混んでいる時ほど高い料金? —フランス鉄道の差別料金制度の文化的背景— | 栗田 啓子 |
| | 論文部門: International and intercultural differences in arguments used against road safety policy measures | Wouter Van den Berghe Nicola Christie |
| 17:11 | 祝辞 | 警察庁長官 露木 康浩 内閣府大臣官房審議官 滝澤 幹滋 |
| 17:21 | 謝辞 | 河原 典史 栗田 啓子 Wouter Van den Berghe Nicola Christie |
| 17:33 | 業績紹介: 除雪の力で滑走路を守る —雪とたたかう人々の技術の伝承— | 北海道エアポート株式会社 |
| 17:43 | 閉会挨拶 | 専務理事 河合 信之 |

参加お申し込み

https://secure.hondanet.co.jp/iatss/ja/entry_society_presentation/

会場、リモートのハイブリッド開催を予定しております。
新型コロナウイルスの感染状況により、リモート開催のみにさせていただきますので、
予めご了承ください。



お問い合わせ先

(公財) 国際交通安全学会 担当: 石原、廣野

E-mail ishihara.s@iatss.or.jp, hirono.y@iatss.or.jp